

ケーラー病について

病 名	病気の症状や対応について	難病の団体・HP
ケーラー病	<p>◇症状</p> <p>繰り返し圧迫力がかかることによって足舟状骨(そくしゅうじょうこつ)への血行が一時的に障害されて生じる足部骨端症(そくぶこったんしょう)(無腐性壊死(むふせいえし))のひとつである。</p> <p>①発病の経緯 明らかな外傷歴がないことが多いが、繰り返し負荷がかかったことを示唆する経緯が認められることもある。急性発症はまれで、慢性に経過することが多い傾向にある。</p> <p>②年齢・性別・左右差 幼児・小児期にみられ、とくに4～7歳に多い。男性は女性より4～6倍ほど多く、両側例が約3分の1にみられ、症状には左右差があることも多い。</p> <p>③症状 足背内側(そくはいないそく)、足舟状骨に一致する疼痛・圧痛があり、歩き方がおかしい、歩きたがらないといった症状を示します。腫脹(しゅちょう)は反応性の滑膜炎によってしばしば認められますが、熱感はない場合のほうが多い傾向にある。関節の動きに制限はないが、足首の内返しによって疼痛を訴えることもある。</p> <p>◇治療</p> <p>強い症状は比較的短期間に消えますが、症状が継続する期間は保存的治療を行う。完全に治癒するまでに長期間かかるが、一般に予後は良好で、後遺症を残さない。</p> <p>①軽度の場合 足舟状骨への負荷を軽減する目的で靴敷きを使用する。室内では自由に歩行してさしつかえない。</p> <p>②重度の場合 歩行用ギプスで3～6週間安静を保つ。とくに疼痛が強ければ歩行を禁止する。そのあとは軽度の場合と同様の靴敷きを用いる。激しい運動は禁止。</p> <p style="text-align: center;">(執筆者：川端秀彦)</p>	